

3-13. 知名町（鹿児島県大島郡）

(1) アドバイザー派遣申請の背景

●地域の概要

【人口】 6,321人（平成28年2月1日現在）

【面積】 53.31k㎡

【地勢】

本町は鹿児島市の南方546km、沖縄の北方180キロメートルの洋上に浮かぶ沖永良部島（周囲55.8km、面積93.67km²）の南西部に位置している。東西10km、南北8kmにして東北部は和泊町に接し、南方には与論島や沖縄本島が望まれ北は東シナ海に面している。

【気候、自然】

標高245mの大山には244haの町有林があり、その頂上部に航空自衛隊のレーダー基地がある。島の大部分が隆起珊瑚礁で形成されており、カルスト地形の発達により大山周辺にはドリーネ（凹地）が多数点在し、数多くの鍾乳洞がある。その洞内を流れる地下水が海岸線付近で湧き水となって地表に現れる。本町の21集落はこの湧き水を中心として形成されてきた。

本島全体がカルスト地形を呈しているため石灰岩が露出している所が多くあるが、亜熱帯樹林が繁茂する大山周辺以外は比較的平坦部が多く、耕地に恵まれ利用度は極めて高く、さとうきび、花き、輸送野菜、葉たばこなどの畑作が盛んであるが、河川は殆ど無く、わずかに2級河川の余多川があるのみで表流水に乏しく、水源は地下水に依存している。

平均気温22℃という温暖な気候であるが、台風の常襲地帯であり、町民の暮らしや農作物に被害を与えている。

【過疎地域自立促進計画より抜粋】

●アドバイザー派遣申請の背景・これまでの取り組み

本町の瀬利覚集落において、平成25年に名水むらジッキョ、自立創造委員会（通称：ファングル塾）が設立され、エコツーリズムの推進に取り組んでいる。

当塾において、会員の大半が高齢者であり、瀬利覚集落の一部しか参加していない状況で、集落民との温度差が見受けられるようになっている。

今回、アドバイザー派遣事業を活用し、集落にある“宝”の素晴らしさを認識し、アドバイザーに評価してもらうことにより、活動の推進力や仲間づくりの契機としたい。

ファングル塾とは..

沖永良部島 知名町瀬利覚字にある任意団体。平成25年に設立し、字の長老達が主となって、「確かなる未来は、懐かしい過去から」をキャッチフレーズに人口減少が続く中、自立・創造的な活動と、島の宝（自然・文化等）を未来の子ども達に残し伝える活動を行っています。（※ファングルは方言で「意地張り」、「頑固」の意）

主な活動1 「トウギョ復活プロジェクト」



主な活動2 「平成の名水100選ジッキョノホー保全」



主な活動3 「伝統芸能瀬利覚の獅子舞と獅子保存」



主な活動4 「拠点施設 ファングル塾の館」



主な活動5 「やさい市」



主な活動6 「子どもたちに学習の場として開放」



(2) アドバイザー派遣の実施概要

日 時	平成 28 年 2 月 1 日 (月) ～2 月 3 日 (水)
場 所	鹿児島県大島郡知名町瀬利覚
アドバイザー	文教大学 国際学部教授 海津 ゆりえ氏
参加者	計 28 名
スケジュール・方法	【1 日目】 芭蕉布ストラップづくり (あまみシマ博覧会) 【2 日目】 講話、ワークショップ 【3 日目】 (移動)

(3) アドバイスの内容（議事録）

本事業では、集落にある“宝”の素晴らしさを認識し、アドバイザーに評価してもらうことにより、活動の推進力や仲間づくりの契機にする目的で、フェノロジーカレンダーの作成を行ったが、あくまでも作成がゴールではなく、作成までのプロセスに重点を置き、宝を掘り起こす手法を学んだ。アドバイザーには、「エコツーリズムと宝探し」と題し、エコツーリズムを始める意義や、全国で取組まれている事例の紹介をいただいた。

(アドバイザーのコメント)

- ・ 多くの人に参加することに意味がある。誰かに任せない
- ・ 老若男女様々な視点で
- ・ 今あるものにこだわらない
- ・ 作りながらたくさん話をする事
- ・ 作り直しはいつでもOK

【ワークショップ風景】



(4) アドバイザー派遣実施の効果

1) 参加者や関係者に与えた効果

エコツーリズムを推進するにあたっての第一段階“宝さがし”の重要性を認識できたことや、掘り起こされた“宝”や失われた“宝”を参加者全員で共有できたこと。

2) 今後、期待される効果

まだまだ、コアなメンバーでの活動が中心であるものの、フェノロジーカレンダーで『見える化』し、再度、集落全体で“宝”を共有することにより“宝”を次世代につなげていくことことや、失われた“宝”の復活が期待される。

3) 今後の取り組み

フェノロジーカレンダーを作成することによって掘りこされた“宝”を個々としてとらえるのではなく、関連付けることによって現在行っているまちあるき以外の新しいプログラムの造成が期待される。

また、他集落においても同様の取り組みを実施することにより、集落（全 21 集落）毎のフェノロジーカレンダー作成も期待される。

(5) 今後の取組推進にあたり参考となった事項、その他感想

1) 参考となった事例

宝探しからエコツーリズムへ

段階		内容
探	宝を探す	地域固有の自然、歴史、文化、産業、人などの資源を地域住民自身が発掘・再発見する
磨	宝を磨く	発掘・再発見された宝を保存・伝承・発展させるための活動
誇	宝を誇る	宝の価値を認識し、地域の中で価値認識を共有するための活動
伝	宝を伝える	地域の外に向かって、宝を発信するための活動
興	宝を活かす	宝を活用して産業に結びつけるための活動

(6) エコツーリズム推進アドバイザーから地域へのアドバイス

海津 ゆりえ氏 (文教大学 国際学部教授)

1) 地域における取組の現状と課題

①現状の取組

沖永良部島は、現在奄美群島全域で進めているエコツーリズム推進法認定取得に向けた群島全体の活動の中で、ガイド養成やルールづくり、まちあるきコース開発等に取り組んでいる。今後、各集落での案内機能や島ごとの窓口機能の整備などを進めていく予定である。アドバイザー申請があった知名町瀬利覚集落（通称・ジッキョ：地の水という意味）では、住民自治によるシマづくりを進める活動団体「ジッキョファンゲル塾」が平成 25 年に設立され、有償ボランティアガイドによる「ジッキョまるごと歴史・文化・自然散策ツアー」の実施や週 1 回の野菜市、集落のたまり場づくり等を続けている。

瀬利覚集落では、奄美群島広域事務組合による「聞き書き」が進められており、今回のアドバイザー事業はその一環としても位置付けられている。

②課題

瀬利覚集落は知名町では地域づくりや観光に対して積極的な集落であるが、その背景としてファンゲル塾の存在が大きい。一方、ファンゲル塾以外の住民の関りを求めることが困難であり、担い手が固定化する懸念がある。高齢化が進むファンゲル塾も危機感を感じており、集落全体あるいはさらに周辺も含めて地域づくりや観光客の受け入れができるようにすることが課題である。

2) 特に魅力を感じた地域資源等

① 魅力を感じた地域資源

ジッキョヌホー、トウギョのビオトープ、向田神社、農地、墓地、海

② 地域資源に魅力を感じた理由

瀬利覚集落には、沖永良部島の特徴を表す資源がいくつも存在する。代表的な資源を挙げる。

・ジッキョヌホー

ホーとは川の意味で、ジッキョヌホー＝ジッキョ（瀬利覚）の川の意味。環境省の平成の水辺 100 選にも選定されている、瀬利覚集落の水場である。石灰岩地の沖永良部島では、水をどのように確保するかが重要な課題であった。昭和 35 年に水道が整備されるまではここで人々は水を取り、洗い物をし、暑い夏は水浴びをしてきた。今は利用はされなくなったが、公民館がすぐそばにあり、園地整備がされていて憩いの場として親しまれている。また毎月清掃を行い、ホー祭りを開催するなど、集落の中心としての機能は失われていない。

・トウギョのビオトープ

ファンブル塾でトウギョのビオトープを管理しており、子供たちの島学習やツアーでの立ち寄り拠点になっている。農地内に設けられた池であるが、田芋その他島の水生植物とともにトウギョが飼育されており、生態系を学ぶ場となっている。

- ・ 向田神社

瀬利覚字の神社として祭礼が守られている。もとは琉球王府を収めた尚三家の北山王の末裔を祀ったものであるが、今は字が管理主体となっている。薩摩よりも琉球とのつながりが濃かった沖永良部島の歴史を物語る資源である。

- ・ 農地

サトウキビとジャガイモを2大産物とする沖永良部島の風景を創るのが農地である。収穫時期は島外からのボランティアや島の高校生たちも手伝いに駆り出され、希望すれば体験することもできる。住民との自然な交流の場となる。

- ・ 墓地

埋葬と弔いの習慣は本土とは全く異なり、墓地にそのあり方が現れている。埋葬から3年後の洗骨儀式は先祖との交流の姿であり、沖永良部島の人との関わり方が伺える。

- ・ 海岸

ウミガメやザトウクジラを見ることも多い。

3) アドバイス（講義等）の概要

瀬利覚集落の希望により、エコツーリズム推進地域の事例紹介とフェノロジー・カレンダーづくりワークショップを開催した。プログラムは以下の通りである。

- ・ 開催日：2016年2月22日（火）
- ・ 場所：瀬利覚字防災センター
- ・ 概要
 - 1:30-2:00 話・エコツーリズムと宝探し
エコツーリズムとは何か
各地のエコツアーの事例（飯能、鳥羽など地域参加型エコツアーを中心に）
フェノロジー・カレンダーとは
 - 2:00-3:00 暦をつくろう Part 1（宝を出し合う）
カレンダーの縦軸を話し合う
グループに分かれて月別資源を出し合う
 - 3:15-4:30 暦をつくろう Part 2（カレンダーをまとめる）
 - 4:30-5:00 宝探しを続けるために

4) エコツーリズム推進全体構想への取組状況・意向について

全体構想は12市町村の推進協議会で合意形成がなされており、現在、国への提出に向けて現地環境事務所と調整中である。

5) 地域に対する印象、今後地域に期待すること（メッセージ）

瀬利覚集落のみなさんは「結」（イータバ）の心を大切に、集落内のつながりを強く保つことを大切にしていってほしい。また外から訪れる人々に対しても積極的に受け入れて集落の将来に向けてプラスになることをキャッチしたり、和泊町の集落とも連携しようとしていたりされています。このような人的つながりを通して地域づくりを進めることは、集落主義を超えて沖永良部島の個性を築き、発信力を強めることにつながると思います。また沖永良部島全体に目を転じると、島キャンやあまみ博覧会など多様な手法で集落の活動を発信するしかけを講じています。頑固者を意味するファンゲルの勢いで、新しい奄美の時代へ挑戦を続けていただければと思います。

未開発の資源もたくさんあり、「まちあるき」やフェノロジー・カレンダーを活かした商品開発、食の開発など多様な展開ができると思います。若者の力などを活用して集落を楽しむプログラムをたくさん作ってください。フェノロジー・カレンダーはぜひ方言で作って、方言講座にも役立てていただければと思います。